

あいち防災通信

第21号発行
愛知県・あいち防災
協働社会推進協議会

災害は忘れた頃にやってくる。
今すぐに、できることから備えよう！



南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

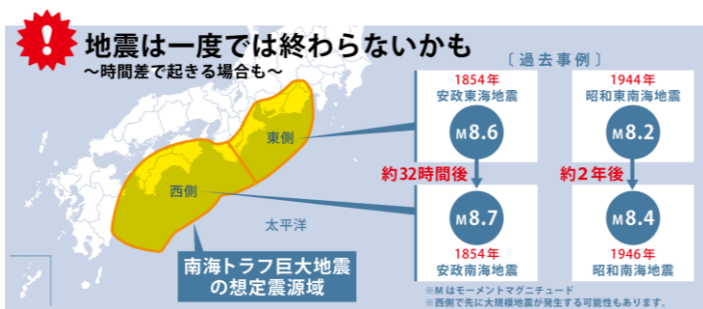
南海トラフ地震臨時情報は、南海トラフの東側と西側で地震が時間差で起きる場合があることに着目した仕組みで、気象庁が南海トラフ地震発生の可能性が高まっていることをお知らせし、注意を呼びかける情報です。

2024年8月8日に、日向灘を震源としたマグニチュード7.1の地震の発生を受けて、2019年の運用開始以来、初めてとなる**南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）**が発表されました。

本県では、直ちに災害対策本部を立ち上げ、24時間、地震への警戒に当たるとともに、県民の皆様に向けて、**日頃からの地震への特別な備えを再確認いただき、地震が発生したらすぐに避難できる準備**をしていただくようメッセージを出させていただきました。

幸い、8月15日には、特段の変化を示すような地震活動や地殻変動は観測されず、政府としての特別な呼びかけは終了いたしました。大規模地震発生の可能性がなくなったわけではありません。

災害の発生に備え、日頃から、家具の転倒防止対策、食料・飲料水などの必要な物資をあらかじめ備蓄するなどの「**自助**」の取組や、災害時に地域の住民や事業者の皆様が互いに力を出し、助け合う「**共助**」の取組に努めましょう。



出典：内閣府作成のリーフレット

臨時情報の発表に伴う特別な備え

- 昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し命を守ることができるよう、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯 など

すぐに逃げられる態勢の維持
非常持出品の常時携帯

出典：南海トラフ地震臨時情報に係る防災対応

南海トラフ地震臨時情報		発表条件
調査中		<ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
キーワード	巨大地震警戒	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■ 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
	調査終了	■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

出典：内閣府・気象庁・消防庁作成の「マンガで解説！南海トラフ地震その日が来たら・・・」

8月からの台風第10号大雨による蒲郡市内での土砂崩れ

2024年8月27日から9月1日にかけて、動きの遅い台風第10号や暖かく湿った空気の影響が続いたため、西日本から東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となりました。

総降水量は東海地方や九州南部で900mmを超えるなど平年の8月の月降水量の2倍以上となった所がありました。

本県においても、台風10号接近前からの大雨により、蒲郡市で土砂崩れが発生し3名の方の尊い命が失われたほか、東三河地域を中心とする県内複数市町で住家被害や農業被害などが発生しました。

本県では、自衛隊に対する派遣要請や被災市への職員派遣により、蒲郡市への支援を実施しました。



9月の奥能登での豪雨災害

2024年9月20日から9月22日にかけて、東北地方から西日本にかけての広い範囲で雷を伴った大雨となりました。

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災地では、9月21日に線状降水帯による猛烈な雨が降り、1時間降水量や3時間降水量などが観測史上1位の値を更新しました。

総降水量は石川県で500ミリを超え、平年の9月の月降水量の2倍を上回った所があるなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨となりました。

輪島市や珠洲市で16名（2025年1月28日時点）がお亡くなりになる等、再び大きな被害が発生しました。

本県では、1月の地震に続き、この大雨でも緊急消防援助隊を派遣する等の支援を実施しました。

大雨被害の概況(R6.9)



出典：石川県、令和6年（2024年）奥能登豪雨による能登半島被害状況

日頃からの備え

近年、台風や大雨は、毎年のように大きな災害をもたらしています。今まで被害がなかったからといって、油断は禁物です。平常時にこそ、風水害が発生した時に何が必要か、どのように行動すべきかを考え、準備することが大切です。**日頃の備えを十分に行う**ことが、風水害の被害を抑えます。

自治体が作成しているハザードマップに目を通し、家族との連絡方法、身近な危険箇所、安全な避難場所を確認しておきましょう。

逃げ遅れゼロを目指しましょう！



家具などの転倒防止対策

能登半島地震では、家屋の倒壊などで多くの方が犠牲となりました。また、地震による負傷の多くは、家具類の転倒や落下によるものです。地震に対する備えの基本は、「**家具類の転倒防止**」です。今回の地震をきっかけに、家具固定への関心が高まっています。

愛知県では南海トラフ地震等の大規模地震の発生が危惧されており、ご家庭において減災に関する取組を進めていただくことが重要です。その中でも、家具固定は身近で比較的簡単にできる取組として、高い減災効果が期待できます。

家具固定と聞くと、「大変そう」、「やり方がわからない」、といったイメージがあるかもしれませんが、ホームセンター等で家具固定グッズを購入し、簡単に取り付けられる方法もあります。

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/482660.pdf>

いざという時のために、家の中を少しでも安全な場所にするため、まずはできることから始めてみましょう！



ダウンロードはこちらから→

愛知県家具固定相談窓口を設置し、家具固定の相談を受付中！

災害に備え、ご家庭や事業所が家具固定に取り組んでいただけるよう、愛知県では、家具固定に関する相談窓口を設置しています。

家具固定について疑問点などがございましたら、以下の相談窓口へお電話、FAX 又は E メールで問合せ下さい。

<愛知県家具固定相談窓口>

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループ（本庁舎2階北側）

電話：052-954-6700（ダイヤルイン）

月～金 午前9時から午後5時15分まで

（土、日、国民の祝日等の休日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く。）

FAX：052-954-6911

Eメール：bosai@pref.aichi.lg.jp

主な相談内容

- ・ 自主防災会等を対象とした講習会等への家具固定推進員の派遣相談
- ・ 家具固定の方法や器具の紹介
- ・ 家具固定器具取付け支援制度の紹介 など



愛知県家具固定推進員の派遣を実施しています

愛知県では、家具固定推進員（家具等転倒防止対策を推進するボランティア）を地域の講習会やイベント、防災訓練等に派遣し、家具固定器具の取付実演や啓発活動を実施しています。家具固定推進員の詳しい内容や派遣申込みについては、「愛知県家具固定相談窓口」までお問合せいただくか、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/0000087717.html>



地震保険・共済について

～経済的な備えはできていますか？～

避難時の備えである「**防災グッズ（食料・飲料水の準備）**」の必要性はご存じだと思いますが、**経済的な備え**はできていますか？被災後の当面の生活を支えてくれる「地震保険・共済加入」について考えてみましょう。

○地震保険（※）とは？

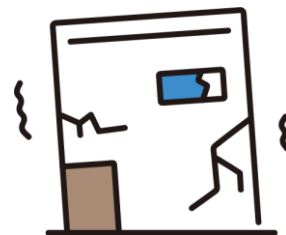
- ① 地震保険では、地震、噴火またはこれらによる津波を原因とする損害（火災・損壊・埋没・流失）に対して、保険金が支払われます。
- ② 被災後の当面の生活を支える保険です。地震保険の保険金だけでは必ずしも元通りの家を再建できませんが、生活再建に大きな役目を果たします。
- ③ 地震による火災及び倒壊などは、火災保険では補償されません。地震による損害に備えるには、地震保険が必要です。

※ 地震保険は、政府と民間の保険会社が共同して運営する制度です。そのため、どの保険会社で地震保険に加入しても補償内容や保険料は同じです。地震共済は、地震保険と同様に政府と共同で運営しているものや、それぞれの共済で独自に運営しているものがあるため、加入する共済によって保障範囲や保障内容、掛金などが異なります。

○地震保険に加入するには？

- ① 地震保険で地震に備える場合、火災保険の加入が必要です。
- ② 地震保険の対象は、建物と家財です。建物と家財はそれぞれで加入する必要があります。
- ③ 保険料は、お住まいの地域（都道府県）と建物の構造によって決まります。また、建物の免振・耐震性能に応じた割引制度があります。

詳細については、損害保険会社または代理店へお問合せください。



出典：一般社団法人日本損害保険協会

～地震が起こってからでは遅い！～

2024年1月に発生した能登半島地震は、阪神・淡路大震災に匹敵するほどの「揺れ」があったとされています。最大震度7の揺れで、多くの建物が倒壊し、輪島市などでは大規模な火災が発生しました。

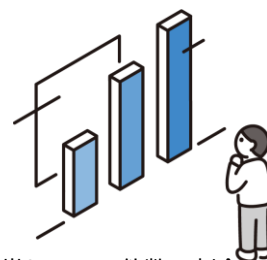
今まで、東日本大震災など大災害が起きるたびに、地震保険の加入率（付帯率※）は高まっているものの、都道府県や地域ごとのばらつきが大きくなっています。

東日本大震災の被災地である岩手、宮城、福島の3県については、震災後（2010年度から2011年度）で付帯率が**約12～18ポイント増加**しており、2023年度の宮城県の付帯率は89.4%となっています。また、2016年に**熊本地震**が発生した熊本県についても、震災後に**約11ポイント増加**し、2023年度は86.2%となっており、地震後に保険加入率が高まるのが現実です。

愛知県の付帯率については、2023年度の全国平均69.7%を超える**76.5%**でした。地震が起きてからでは遅いです！ぜひ、現在お住まいの住宅の火災保険・共済は、地震の被害に遭った際に補償を受けられる内容となっているか、確認しておきましょう。

出典：損害保険料率算出機構

※付帯率：当該年度に契約された火災保険（住宅物件）契約件数のうち、地震保険を付帯している件数の割合



あいち防災フェスタを開催しました

南海トラフ地震の発生が危惧される中、県民の防災意識の高揚、家庭における災害対策の促進及び防災ボランティア活動への理解促進を図ることを目的として、「あいち防災フェスタ」をあいち地震防災の日（11月第2日曜日）である2024年11月10日（日）に、庄内緑地（名古屋市西区）で開催しました。

今年は、ペット同行避難対策を推進するため、ペット防災に関するイベントとして、「ペット防災マルシェ」を初めて同時開催し、約4,000名の方にご来場いただきました。

ステージイベントでは、SKE48による防災〇×クイズ大会、捜索救助犬によるデモンストレーションなどが行われました。また、会場内では、来場者を楽しみながら防災意識を高めてもらえるよう、家具固定・防災対策・ペット防災の啓発、愛知県防災ヘリコプター「わかしゃち」の飛来、防災関係車両の展示などを実施しました。



令和6年度愛知県防災貢献団体表彰 受賞団体の紹介

「あいち防災フェスタ」において、令和6年度愛知県防災貢献団体表彰を行いました。地域防災力の向上を図り、防災協働社会の実現を目的として、地域社会に活動基盤を持つ自主防災組織や企業などの中から、優れた工夫・アイデアを防災活動に取り入れるなど、防災対策の充実や防災意識の高揚に積極的に取り組んでいる団体を表彰しました。



日進市：野方区自主防災会



大府市：長草自主防災会



美浜町：古布区自主防災会



豊川市：桜町連区防災推進協議会



名古屋市：なごや防災ポラネット

防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎(や)」を開催しました

日頃から防災・減災活動に取り組む地域の方々や団体、NPO 法人、ボランティア、学生、社会福祉協議会や行政職員等の防災人材同士の交流や意見交換を行うことにより、災害時お互いに協力し合える関係を構築し、地域防災力の向上を図るため、1月11日に防災人材シンポジウム「つなぎ舎」を開催しました。

- 主 催：防災人材交流シンポジウム実行委員会
- 共 催：公益社団法人3.11メモリアルネットワーク、
一般社団法人日本損害保険協会中部支部、
中日新聞社、一般社団法人国立大学協会
- 日 時：2025年1月11日(土) 12:30~18:00
- 場 所：名古屋大学豊田講堂
- 参加者：277名
- 主な内容

【第1部】報告・講演

- ・『令和6年能登半島地震の現状や支援活動等の報告』
認定NPO法人レスキューストックヤード
- ・『他地域での防災人材の活動と連携』
TEAM 防災ジャパン
- ・『東日本大震災 被災者からのメッセージ』
公益社団法人3.11メモリアルネットワーク
TEAM 大川未来を拓くネットワーク 只野 哲也 代表
元富岡町社会福祉協議会事務局次長 吉田 恵子 さん



第1部の様子

【第2部】防災人材 大ワークショップ

「耐震化・家具固定」「避難所～生活再建支援」「世代交代・世代間連携」「組織間連携・地域間連携」「災害伝承」の5つのテーマで分科会を開催



第2部の様子

【第3部】ワークショップ成果発表・パネルディスカッション

コーディネーター：認定NPO法人レスキューストックヤード
栗田 暢之 代表理事
パネリスト：名古屋大学 福和 伸夫 名誉教授
公益社団法人3.11メモリアルネットワーク
武田 真一 代表理事



第3部の様子

2024年度防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」

南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、2012年度から防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」を開催しています。2024年度も前期・後期併せて延べ2,692名の方が修了され、県民の皆様への「防災人材育成」及び「防災普及啓発」を行うことができました。

2025年度も運営の改善、講義内容の充実を図り、防災人材育成を引き続き推進していく予定です。皆様の積極的な御参加をお待ちしています！

なお、**2025年度の開催案内は、5月頃に掲載するWebページを御確認ください。**

(<http://gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html>)

○主催：あいち協働社会推進協議会、あいち・なごや強靱化共創センター



～講義～



～グループワーク～



～DIG 演習～



～防災・減災ツアー～

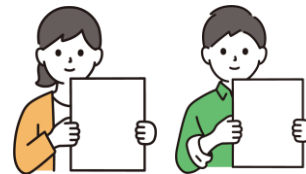
「あいち防災人材」認証&表彰制度にご応募ください！

<「あいち防災人材」認証>

地域の防災力向上のため、防災・減災カレッジを受講して得た知識などを生かし、防災・減災に関する自主的な取組を実践された方を「あいち防災人材」として認証する制度を2023年度よりスタートしました！

○取組のイメージ

- 家庭：食料の備蓄、家具固定や耐震化を実践 など
- 企業：職場の防災訓練やBCP作成への協力、防災グッズの開発 など
- 地域：地域の避難計画作成、ボランティア活動に参画 など



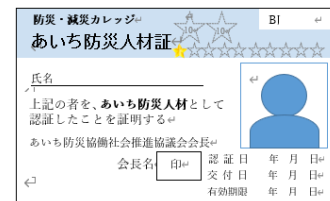
○応募方法等

以下のあいち・なごや強靱化共創センターweb ページを御確認ください。

<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html#authentication>

認証された方には、あいち防災人材証カードを交付します。

個人で何度も応募可能で、応募件数が増える毎に、カードの星マークが追加されます。



<「あいち防災人材」表彰>

前述の認証を受けた方を対象に、地域防災力の向上に特に貢献し、他の模範となると認められる優れた取組を実践された方を表彰します！

○表彰の種類

- ・あいち防災人材大賞 1点
- ・あいち防災人材奨励賞 数点

○応募方法等

以下のあいち・なごや強靱化共創センターweb ページを御確認ください。

<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html#commendation>

応募は自薦・他薦を問いません。被表彰者は、審査会で審査の上決定します。

防災・減災カレッジの開校式（6月末頃）にて表彰状授与式を行う予定です。

みなさまのご応募を、ぜひともお待ちしております！



愛知県基幹的広域防災拠点の整備の推進

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模災害時に、全国から派遣される自衛隊、消防、警察等の支援部隊や、国からの支援物資を受入れ、県内全域に供給する、「愛知県基幹的広域防災拠点」の整備を進めています。

整備計画地は、空港と高速道路の二つに直結する、名古屋空港北西部（豊山町青山地区）で、規模は19.2 ha となります。

また、平常時は、消防学校及び公園としての活用を計画しています。消防学校では、消防職員等の育成の他、訓練施設を活用した地域の防災教育・人材育成の場としても開放していきます。公園では、多くの方にご利用いただけるよう、運動施設等の他、防災関連イベントや防災ビジネス支援の拠点としても展開していきます。

「愛知県基幹的広域防災拠点」は、第1期の消防学校については2028年度内、第2期の防災公園については2029年度上半期の完成予定を目指して整備を推進しています。

愛知県基幹的広域防災拠点（第1期：消防学校）

整備コンセプト 『名古屋市との共同設置による全国初の消防学校教育』

運用方針：全県一貫した教育訓練による県内消防力の強化、地域への施設の開放など開かれた消防学校として運営

整備イメージ ※ 県が今後、要求水準書で示していく内容をイメージ化したものであり、全体のパス、各施設の外観デザインや詳細な仕様は、PFIによる提案に基づき決定される。

- 教育棟**
 - 防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
 - 県職員が常駐し防災啓発、防災ビジネス支援の拠点として運営
 - 防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災イベントを定期的に実施
 - 小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施。
- 救助訓練棟・雨天訓練設備**
 - 全国消防救助技術大会等の基準を満たした施設
 - 救助訓練棟全体を覆う大屋根を設置し、雨天でも訓練可能とする（全国初）
- 街区消火訓練場**
 - 可動式模擬家屋9棟（住居・店舗等）を用いて様々な街区を想定した救出・消火訓練を実施
- 複合訓練施設**
 - 高層建築物での火災等を想定した消火、救出訓練を実施
 - 実火災を再現し、高度な消火技術を養成できる訓練を実施
 - 煙の異質化処理設備を設置
- 管理・教育棟**
 - 初任科学生最大350人を収容可能な大教室、専科用講義、シミュレーション訓練で用いる中・小教室を配置

- 屋外訓練場**
 - 愛知県消防操法大会が実施できる仕様を満たした屋外訓練スペースの確保
- 震災訓練場**
 - 建築物が倒壊した現場を想定した被災者救出訓練機能の確保
- 土砂災害訓練場**
 - 土砂災害を想定した実技訓練、生き埋の検索訓練等の機能の確保
- 水難救助訓練場**
 - 河川、海岸からの救出を想定した訓練を実施
 - 幅50m×縦4m、6コースの訓練プール
 - 水槽に1.2m、3m、5mの異なる水深を設ける
 - 水中スピーカー、訓練用観察窓を設置
 - 全国消防救助技術大会等の基準を達成
- 宿泊棟**
 - 学生350人の宿泊室を確保
 - 最大400人が食事可能なスペースを確保
 - 談話室、トレーニングルーム、図書室を設置

<拠点運用時の中核施設としての活用>

- 管理・教育棟にコントロールルームを設置し、本拠点における各災害対応業務の統括を行う機能として活用
- 主要な建物は免震構造とし、震災対策本部の代替機能、各防災関係機関の活動スペースとして活用
- 宿泊棟において、拠点で活動する人員（県本部機能、物流拠点、DMAT本部の各要員）350人の宿泊室を確保（座下等を活用し、更なる要員の受け入れを目指す）
- 屋外訓練場を、消防応援部隊のベースキャンプとして活用
- 教育棟を広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）として活用し、早期に体制を確立
- 1週間の電力を確保する自家発電機、2週間の飲料水・生活用水の確保、県独自の次世代高度情報通信、公衆無線LANを設置し、耐災害性を備えたライフラインを整備

愛知県基幹的広域防災拠点（第2期：防災公園）

整備コンセプト 『憩い・交流の場やスポーツ等の場となる防災公園』

運用方針：賑わいの創出による地域活性化するとともに、基幹的広域防災拠点機能を有する防災公園として運用

整備イメージ ※ 県が今後、要求水準書で示していく内容をイメージ化したものであり、全体のパス、各施設の外観デザインや詳細な仕様は、PFI事業者による提案に基づき協議・決定する。

- 舗装広場**
 - テニス、バスケット等に利用
 - 【災害時】
 - 物資の置き場や輸送トラックの待機場所
- 屋内運動施設**
 - インドアテニスコート等公式戦が可能な施設
 - 天候を問わず運動や防災ビジネス等のイベントに活用可能
 - 【災害時】
 - 県内全域の物資をカバーし、雨天時に物資の集積に対応可能、屋内外でフォークリフトが円滑に走行可能な広域物搬送拠点
 - 備蓄食料等を保管する備蓄倉庫
- 人工芝広場**
 - アウトドアフィットネスなどの健康づくり・憩いの場
 - 防災イベント等の屋外イベント
 - 【災害時】
 - 物資の置き場や輸送トラックの待機場所などとして活用

- 多目的広場①②**
 - サッカー、野球場等
 - 【災害時】
 - 救出・救助部隊ベースキャンプ機能
- 芝生広場**
 - 多目的広場①②と連携してアップフィールドとしての活用
 - 神明公園に訪れたファミリー層の多様なレクリエーションの受け皿
 - 【災害時】
 - 救出・救助部隊ベースキャンプ機能
- 神明公園**
 - デイキャンプ
 - サバイバルキャンプ等の防災イベント
 - ※現状の機能（プレイロット、健康器具、駐車場等）を代替。
 - 【災害時】
 - 救出・救助部隊、豊祭、TEC-FORCEのベースキャンプ

ゼロメートル地帯における広域防災活動拠点の整備の推進

愛知県は国内最大のゼロメートル地帯を有することから、南海トラフ地震等の発生時に、堤防沈下や津波による浸水被害から県民の生命を守るため、浸水区域に残された人々をボートやヘリコプターにより迅速に救助し、浸水区域外へ救出する広域的な防災活動拠点の整備を弥富市・海南こどもの国、豊橋市・国道23号豊川橋料金所跡地の2箇所で進めています。（愛西市・旧永和荘跡地は2023年3月に、西尾市行用町は2025年3月に供用を開始しています。）

〈拠点運用イメージ〉

- 避難ビルに避難した人々や自宅の2階などに取り残された人々を、ボートやヘリコプターにより迅速に救助
- 効率的な救助活動を実施するため、救助者を広域防災活動拠点へ救出
- 救出された救助者を大型ヘリコプターにより、浸水地域外（内陸地）へ搬送

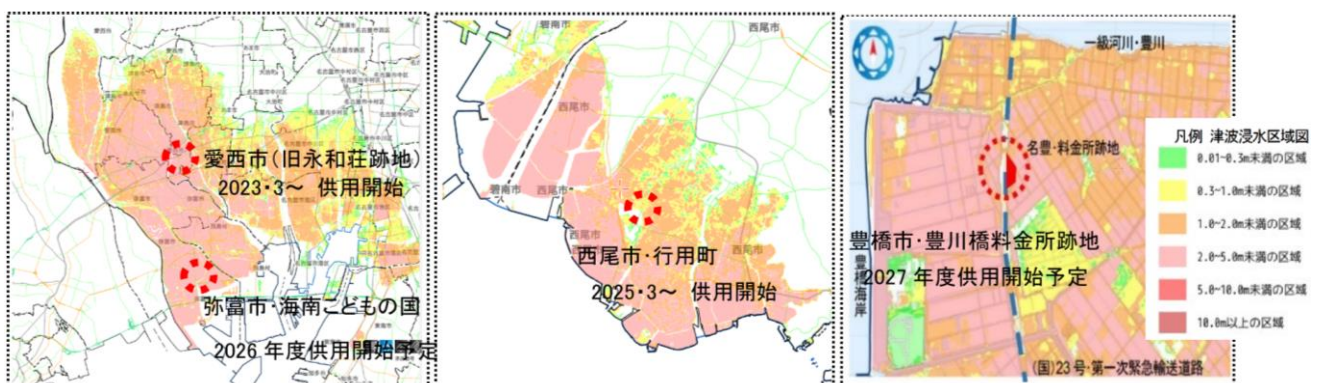


〈広域防災活動拠点整備箇所〉

▼木曽三川下流域

▼西三河南部地域

▼東三河南部地域



防災教育センターの体験講習会

近年発生した地震では、けがをした人のうち約30~50%の人が、家具類の転倒・落下・移動により負傷しています。家具類の転倒防止は、家庭や職場でできる効果の高い対策です。

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地域における家具固定の取組や自主防災活動を促進するため、以下のとおり愛知県防災教育センター（県消防学校内）において、県民の皆様からの申請に基づき、**家具固定器具取付・ガラス飛散防止フィルム貼り体験講習会**始め3つの体験講習会を開催しています。



体験講習会の詳しい内容や申込みについては、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/bousaikyouikusenta30.html>

民間事業者と連携した防災啓発活動の実施

今年は、民間事業者等と連携し、ショッピングセンターやハウジングセンター、各種イベントにおいて啓発ブースを15回、延べ27日出展し、啓発チラシや家具等転倒防止グッズの配布等による家具等転倒防止対策の啓発活動を実施しました。また、民間事業者等のネットワークを活用し、啓発チラシを7,200部配布するなど、家具等転倒防止対策の推進を図っています。



防災ボランティア活動支援事業に係る寄附金を募集しています。

「**防災ボランティア**」は、被災者に寄り添い、被災地のニーズに即して、きめ細かな活動を展開するなど、被災者が生活を再建し、被災地が復興を遂げていく上で、欠かせない存在となっています。

特に、南海トラフ地震などの広域的な災害時には、全国からボランティアを受け入れることはもとより、他の地域での災害時にも県内のボランティアを送り出す、県域を越えた相互支援の取組を促進していくことが極めて重要です。

そこで、愛知県では、ボランティア活動の活性化に向け、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会が、災害時に実施する防災ボランティア活動支援事業に要する経費を助成することとしています。

あわせて、ボランティア活動は、自助と公助をつなぐ広域的な共助の活動として、広く普及を図り、社会全体で支えていくことが重要なため、**県内外から広く「防災ボランティア活動基金」への寄附を募集**しています。

御寄附を御検討いただけましたら、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまでご連絡ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/20210329-kikin.html>



「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム」 (防テクPF) 第 10 回マッチングセミナー

民間企業等が持つ先進技術のマッチングや効果的な活用事例の横展開など、防災行政に関する様々な課題解決につながることを期待される、「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム」(防テクPF) (※) 第 10 回マッチングセミナーを内閣府主催・愛知県共催により、2025 年 2 月 20 日に STATION AI (名古屋市昭和区) で開催しました。

本セミナーは、愛知県では初開催となり、多くの企業に御参加いただき、「防災産業の育成」と「社会全体のレジリエンス強化」を目指す取組を紹介しました。

今回は、パネルディスカッション、マッチングピッチャや屋外展示など新たな企画を開催しました。

(※) 「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム」(防テクPF) とは、災害対応を行う地方公共団体、公的機関等の困りごとや関心事項(ニーズ)と、民間企業、研究機関等が持つ先進技術のマッチングや効果的な活用事例の横展開等を行う場として、内閣府が設置。



パネルディスカッション



技術展示 (屋内)



技術展示 (屋外)

2025 年愛知県被災者支援シンポジウム ～愛知県における災害中間支援組織のあり方～

愛知県における災害中間支援組織 (※) のあり方を議論し、被災者支援を行う関係者全員での意識醸成を図ることを目的とした、2025 年愛知県被災者支援シンポジウム ～愛知県における災害中間支援組織のあり方～を愛知県及び防災のための愛知県ボランティア連絡会主催により、2025 年 2 月 24 日に伏見ライフプラザ (名古屋市中区) で開催しました。本シンポジウムでは、「基調講演」と「パネルディスカッション」を行いました。

(※) 災害中間支援組織とは、被災者のため、自発的かつ組織的に支援を行う NPO 等の活動をサポートし、行政・社協・NPO などのセクター間の連携を進め、課題解決のための被災者支援コーディネーションを行う組織。



基調講演



パネルディスカッション

避難生活支援リーダー／サポーター研修 ～「災害関連死・ゼロ」を目指して～

災害時の避難生活の環境向上に貢献できる地域の人材育成を目的とした、避難生活支援リーダー／サポーター研修～

「災害関連死・ゼロ」を目指して～（※）を内閣府主催・愛知県共催・豊明市、藤田医科大学協力により、2025年3月1、2日に藤田医科大学（豊明市）で開催しました。

本研修は、愛知県では3回目の開催となり、多くの皆様に御参加いただき、「避難所運営演習」などに取り組みました。



グループ討議

（※）避難生活支援リーダー／サポーター研修～「災害関連死・ゼロ」を目指して～とは、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和4年度から内閣府が開始。



避難所の環境改善演習

防災・減災備L(そなえる)診断Webサイト ～質問に回答することであなたに必要な防災対策が診断されます～

一人一人の状況に合わせた防災情報を提供し、県民の「自助」を促進するため、パソコン及びスマートフォンから診断できるツール「防災・減災備L(そなえる)診断webサイト」を「あいち地震防災の日」に開催する11月10日の「あいち防災フェスタ」に合わせて開設しました。

質問に回答することで、その人にあった防災対策の診断結果が表示されます。アプリをダウンロードする必要はなく、パソコンやスマートフォンから誰でもすぐに始められます。

なお、本webサイトは、「AICHI X TECH」(アイチ クロス テック)の実証実験を経て開発したもので、2022年度から2023年度までに実証実験を実施した18テーマのうち、4テーマ目の本格導入となります。



家族構成やお住まいなどに関する約10項目の質問に回答することで、診断結果として、必要な準備と対策が表示される構成で、備蓄品等については、家族の人数などに応じ、持出品・備蓄品それぞれに必要な数量が自動計算で表示されるようになっています。

<https://aichi.bosai-gensai.sonai.shindan.pubtech.jp>



あいち防災通信に関する問い合わせは、

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまで 電話 052-954-6190